



様式1(主な取組)

予算事業名 緊急消防援助隊ブロック訓練負担金							R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画	
主な財源	実施方法	H26年度 決算額	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	○H30年度: 平成31年11月に鹿児島県で開催された緊急消防援助隊九州ブロック訓練に参画し、災害時における関係機関との連携活動能力の向上等を図った。 ○R元(H31)年度: 緊急消防援助隊九州ブロック訓練に参画し、災害時における関係機関との連携活動能力の向上等を図る。	
県単等	負担	600	600	600	600	600	600	県単等		
活動指標名	消防機関等への国際緊急援助隊加入促進				H30年度			H30年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	参加意思の確認等	—	100.0%	750	順調	緊急消防援助隊の県内代表消防機関に対して、昨年度に引き続き、国際緊急援助隊への登録意向確認を行い、国へも意向の伝達を行った。また、登録に際しては、高度な消防技術も必要とされることから、県内外での訓練等に際し、負担金支出など側面的支援を行い、消防技術の向上を促進した。
活動指標名					H30年度					
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
活動指標名					H30年度					
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果										
国際緊急援助隊への追加登録は、国による要請があった場合に、はじめてなされるものであるが、国から要請があった場合には、その時点で該当の消防機関の意向を確認し、登録申請を行える状況であり、取り組みに対する進捗としては、順調である。										

## 様式1(主な取組)

(2)これまでの改善案の反映状況	
平成30年度の取組改善案	反映状況
<p>① 国内緊急消防援助隊のブロック訓練に県大隊として参画するなど、消防救助技術の維持向上に努める。</p> <p>② 消防庁による国際消防援助隊の体制見直しにあわせ、消防機関と連携し、参加登録を促していく。</p>	<p>① 平成30年5月に救助技術指導会を開催し、救助技術の向上等を促進するとともに、平成30年11月に鹿児島県で開催された緊急消防援助隊九州ブロック訓練に参画し、土地勘がない状況下で、迅速な救命活動を行うための情報収集や活動方針の樹立、関係機関との連携活動手法など国外での活動でも通ずる技術の修得を促した。</p> <p>② 緊急消防援助隊の県内代表消防機関に対して、昨年度に引き続き、国際緊急援助隊への登録意向確認を行い、国へも意向の伝達を行った。</p>



### 3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)	
<p>○内部要因</p> <p>・災害時の国際貢献活動は、知事の重要施策の一つでもあることから、引き続き、本県消防機関の国際緊急援助隊への登録を促進する。</p>	<p>○外部環境の変化</p> <p>・「国際緊急援助隊の派遣に関する法律」により派遣される国際緊急援助隊救助チームの中核を担う国際消防救助隊には、全国の政令市等から77消防本部が登録されている。国際緊急援助隊への追加登録は、国による要請があった場合に、はじめてなされるものであるが、近年、追加登録の要請はないのが現状である。</p>
(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)	
<p>・国際緊急援助隊の登録に向けては、より高度な消防技術も必要とされることから、県内外で実施される訓練等を通じ、消防技術の研鑽に努めておく必要がある。</p> <p>・国際緊急援助隊への追加登録は、国による要請があった場合に、はじめてなされるものであり、国の動向を注視していく必要がある。</p>	



### 4 取組の改善案(Action)

<p>・県内の消防本部が参画して実施される救助技術指導会や、九州ブロックでの緊急消防援助隊の訓練に県も負担金支出という側面支援を行い、訓練内容の充実などにより消防技術の向上を促進する。</p> <p>・国へ県内消防機関による緊急消防援助隊への登録意向を引き続き伝達していく。</p>
---